



アキレスのCSR 2019



Living with Society



トップメッセージ



代表取締役社長

伊藤 淳

「初心にかえる」、この言葉を改めて考えてみたい。そんな気持ちになったのは、新聞やテレビニュースでいろいろなハラスメントや品質偽装問題などが報道されることが増えたからです。これらが起きた原因の多くは、自分自身が多くの人と密接にかかわり合っているにもかかわらず、それを無視、または軽視し自己中心的な考えで行動する行為と、それを許す組織風土にあると思っています。

私たちアキレスの「初心」とは何か。それは、創業の精神に立ち返ってみると、戦後「新しい暮らしの夢を創る」企業として発足し、わずかな社員が一枚岩となって「お客様の暮らしを豊かにしたい」との強い思いを持ち、果敢に新たな事業に挑戦した、その熱意にほかならないと思っています。

私たちアキレスグループの企業理念である「社会との共生」＝「顧客起点」は、まさに「社会的課題」や「お客様の身近に起きて困っておられる問題」を解決する企業として、グループ一丸となって取り組んでいくことであります。これらの問題を解決するために必要なことは、社員一人ひとりの力を集め、またその総和を適切に課題に振り向けていくことであり、より実効性を高めていく上で、社員個々の力を向上させ十分に発揮できるよう、教育研修を充実させてまいります。

また、プラスチック加工メーカーとして、お客様に寄り添った身近な製品をタイムリーにご提供できる開発体制も、充実させてまいります。特に環境対応製品や循環型製品のさらなる開発も行わなければなりませんし、とりわけ世界的な課題として対応を求められるプラスチックの海洋汚染について、プラスチックの良さを生かしつつ、自然に還る素材の開発に注力していきます。

2020年東京オリンピック・パラリンピックを来年に控え、私たちアキレスグループの商品やサービスを世界のお客様に知っていただく絶好の機会と捉え、グループ全員が世界・日本社会の動向やお客様のニーズを把握し、積極的なご提案をさせていただきたいと思えます。

2019年9月

企業理念

「社会との共生」=「顧客起点」

「顧客起点」のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する。

アキレスグループのCSRの基本的な考え方

私たちアキレスグループは、豊かで快適な社会づくりに貢献できる会社であり続けることを目指しています。そのために必要なのが、企業に社会に未来に、新たな価値を創り続けていくことです。「健康」「快適さ」「楽しさ」「省エネルギー」をキーワードに、創業以来培ってきたプラスチック加工技術をさらに向上・進化させ、お客様により身近な製品、独創性のある製品をご提案します。私たちはたゆまぬ改善を重ね、全てのステークホルダーの皆様の信頼とご期待に応えます。

アキレスのCSR重要テーマ

アキレスでは、ISO 26000の7つの中核主題に基づき、自社にとって重要度の高い取り組みを「CSR重要テーマ」と位置づけています。

- 1** **【消費者課題】**
製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供
製品における安全性確保や品質向上に取り組み、社会の要請に応え感動を与えるモノづくりを追求します
- 2** **【環境】**
環境への取り組み
CO₂、水、廃棄物などの環境負荷低減、森林や生物多様性などの環境保全に取り組みます
- 3** **【公正な事業慣行】**
取引先との協働
取引先を含めたサプライチェーン全体における取り組みや、公正な事業活動を推進します
- 4** **【人権】と「労働慣行」**
人権や多様性の尊重とグローバル人材の育成
人権に配慮し多様な人材を活用しグローバル人材を育成します
- 5** **【人権】と「労働慣行」**
安全で働きやすい健康的な職場環境
安全で健康に働くことのできる職場づくりに取り組みます
- 6** **【コミュニティ参画・発展】**
地域との関わりと社会貢献活動
地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重んじ、地域の発展に貢献します
- 7** **【組織統治】**
ガバナンス・リスクマネジメント
経営の透明性を高める制度の強化、リスク対策に取り組みます

持続可能な開発目標 (SDGs) とは

SDGsは、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略語です。2030年までを期間として、2015年に国連で採択された国際目標で、17のゴールと169のターゲットで構成されています。CSR重要テーマの横に配置したロゴは、アキレスグループがそれぞれの取り組みを通して貢献しているゴールを表しています。



事業内容

シューズ部門

シューズ事業部 キッズ、メンズ、レディースシューズ



キッズ



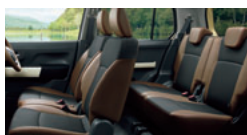
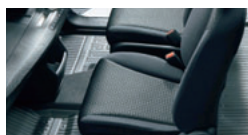
メンズ



レディース

プラスチック部門

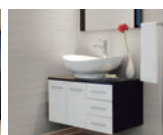
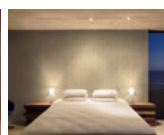
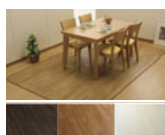
車輻資材事業部 車輻内装用資材、一般塩化ビニールレザー、合成皮革など



化成事業部 一般用・工業用・農業用フィルムなど



建装事業部 建築用内装資材

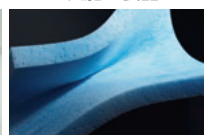


引布販売部 防災テント、ボート、住宅排水管用フレキシブルジョイントなど

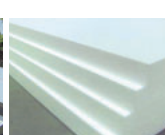
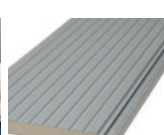
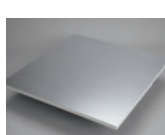


産業資材部門

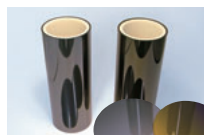
ウレタン事業部 軟質ウレタンフォーム製品、および2次加工製品



断熱資材事業部 硬質ウレタンフォーム断熱製品、現場発泡用硬質ウレタンフォーム、発泡スチロール断熱材など



工業資材販売部 静電気対策製品、反応射出成形品など



開発営業部

開発営業部 [Tn-p工法]などインフラ関連技術、「グラレス」



沿革

1947年	5月	資本金200万円をもって「興国化学工業株式会社」を設立。本店を東京都中央区日本橋とし、工場を栃木県足利市に置き、ゴム製品の製造、販売を開始。
1948年	4月	塩化ビニール製品の製造・販売を開始。
1951年	3月	本店を東京都中央区新富町に移転。
1956年	6月	大阪営業所を大阪支店に昇格し、関西市場の拡張をはかる。
1957年	4月	栃木県足利市に山辺工場(現・足利第一工場)を建設。
1961年	6月	英国ICI社と軟質ポリウレタンフォームの製造に関する技術提携。
1962年	9月	東京証券取引所市場第一部に上場。
1963年	1月	当社独自の合成皮革「カプロン」の製造に成功、販売を開始。
1964年	2月	本店を東京都新宿区大京町に移転。
1965年	11月	米国ニューヨークに現地法人アキレスK.C.I. Corp. を設立。 (1978年ACHILLES USA, INC. により吸収)
1969年	7月	栃木県足利市に御厨工場(現・足利第二工場)を建設。 車輻内装材、硬質ウレタンシエル等産業資材の製造に着手。
1973年	2月	香港駐在員事務所を現地法人とし、「興白有限公司」(現ACHILLES HONG KONG CO., LIMITED) 設立。
1973年	10月	滋賀県犬上郡に関西工場(現・滋賀第二工場)を建設。
1973年	11月	米国ワシントン州エヴァレット市に「KOHKOKU USA, INC.」(現ACHILLES USA, INC.) を設立。
1974年	8月	北海道美唄市に美唄工場を建設。
1978年	11月	滋賀県野洲市に滋賀第一工場を設立。
1982年	2月	社名を変更し、「興国化学工業株式会社」から「アキレス株式会社」とする。
1986年	6月	ドイツA.S.Creation社と壁材製造に関する技術提携。
1988年	3月	スウェーデンTarket社と床材の製造に関する技術提携。
1989年	1月	福岡県飯塚市に九州工場を建設。
1993年	12月	中国昆山市に塩ビレザーの製造合弁会社「昆山阿基里斯人造皮有限公司」設立。
1998年	12月	導電性素材「STポリ」生産開始。
2002年	9月	ISO 14001全国7工場6関連会社の全てで認証を取得。
2002年	10月	中国上海市に、中国国内における当社関連製品の販売および輸出入を行う「阿基里斯(上海)国際貿易有限公司」を設立。
2004年	2月	「昆山阿基里斯人造皮有限公司」第二工場稼働。
2005年	12月	栃木県足利市の足利第一工場内に「アキレステクニカルセンター」を開設。
2006年	11月	「三進興産株式会社」の発行済全株式を取得し、当社子会社とする。
2007年	10月	環境に配慮した車輻内装用合成皮革の生産に向け、最新鋭製造設備を足利第一工場に導入。 全事業部でのISO 9001取得。
2008年	2月	台湾に、半導体市場の生産拡大に合わせ「阿基里斯先進科技股份有限公司」を設立。
2008年	4月	米国デトロイトにACHILLES USA, INC. の営業所を設立。
2009年	3月	シューズ「瞬足」ブランド、伊藤忠商事株式会社とパートナーシップ契約を締結。
2015年	2月	本店を東京都新宿区北新宿に移転。

数字で見るアキレスグループ

アキレスグループの2018年度の年間実績について、ご紹介します。

研究開発費

14.4億円

- プラスチックの「製膜」「発泡」「成型」をコア技術とした新商品の研究開発
- 性能向上、コストダウンに向けた新技術の開発
- 「健康」「環境」「省エネ」の3つを重点領域とした技術の開発
- イノベーションを育む産学官共同開発

調達部材総点数

約11,500点^{※1}

- 原材料の品質管理
- 品質向上に向けた取引先様との協働（取引先企業数 約1,000社^{※2}）
- CSR活動の拡大

※1 国内グループ製造部門における製品製造に関連する調達部材の2018年度実績です

※2 国内グループにおける2018年度の取引先様数です

世界の製造拠点数

16拠点

- 地球温暖化対策を含む環境配慮につながる活動推進
- 資源の有効活用
- 5S活動の推進

山形県からの「J-クレジット」購入数量

335t-CO₂

- 「やまがた太陽と森林（もり）の会」よりJ-クレジット^{※6}を購入（2018年度の購入数量）

※6 政府が運用する「J-クレジット制度」により認証された、再エネ機器の導入などによるCO₂削減量です

調達・購買



企画開発



生産



地域社会との価値協創



アキレスグループの2018年度年間実績

品質管理



国内製造拠点 ISO 9001取得数

11拠点

- 国内製造拠点ほぼ全てにおいてISO9001を取得
- 品質保証の維持・向上

お客様とのコミュニケーション



販売



物流



廃棄・リサイクル



お客様相談室への年間お問い合わせ件数

4,700件

- ご意見 650件
- その他お問い合わせ 4,050件

国内グループの廃棄物リサイクル率

99.97%

- 3R^{※3}活動を通じて環境負荷低減を推進

業界最高水準^{※5}を誇る「ジーワンボード」の熱伝導率

0.018W/(m・K)

- 「ジーワンボード」は ZEH、HEAT20 G1・G2 などの次世代省エネ住宅で求められる高い断熱性能を実現するアルミ箔面材と高性能硬質ウレタンフォームを組み合わせた当社製断熱材です

※5 2019年1月末の時点で販売されている建築用断熱材のうち、真空断熱材などを除く、一般の繊維系断熱材、発泡プラスチック系断熱材と同じ断熱性能発現機構を持つ製品との比較であり、当社調べです

輸送のモーダルシフト^{※4}率

18.9%

- モーダルシフトの拡大と輸送効率化を推進

※4 貨物輸送をトラックから鉄道や船に換えることで、一度に大量の貨物を輸送することができ、CO₂排出量を抑えることができます

※3 廃棄物の発生抑制（リデュース）、部品などの再利用（リユース）、再生資源としての再利用（リサイクル）の略語です

Achilles THE NEXT 2018

「Achilles THE NEXT」マテリアル&プロダクト展2018(以下、ATN2018)は、お客様・お取引先様に当社の価値創造の源泉を深くご理解いただくとともに新たな価値創造を目指し、闊達な対話を行うことを目的としたアキレスグループの総合展示会です。

開催目的 企業理念の実践に向け、ご来場者様とのパートナーシップを強化

アキレスグループは、企業理念である「社会との共生」=「顧客起点」の実践を通じて、より良い豊かな社会の実現への貢献を目指しています。人々が豊かと感じる社会のため、アキレスグループが社会に提供すべき価値について、幅広いステークホルダーの皆様のご意見に耳を傾け、その要請に応え続けることが重要なミッションであると考えています。また、社会にとって有意義な価値の創造は、当社グループを含めたバリューチェーン全体で取り組むことで、より大きな価値へと進化するものと考え、当展示会は、そのような機会の一つと位置づけています。

当展示会は、2013年の初開催から5回目となります。今回は、「変幻自在な未来へ。人に社会に、プラスチックができること」をテーマに掲げ、コア技術、素材、パートナー企業など、さまざまな組み合わせを模索した製品群を展示し、そこから見える新たな価値について、さまざまな業種のお客様から貴重なご意見をいただくことができました。

豊かな社会を目指し、いただいたご意見をもとに新たな価値を創造し続けていきます。

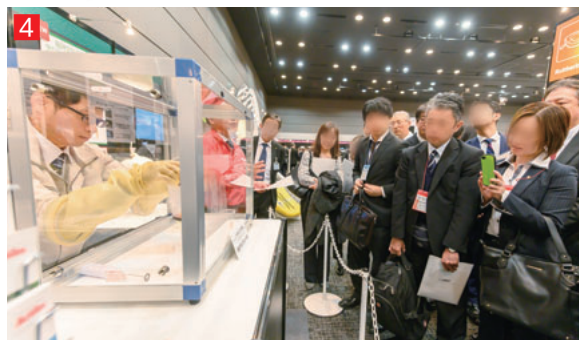
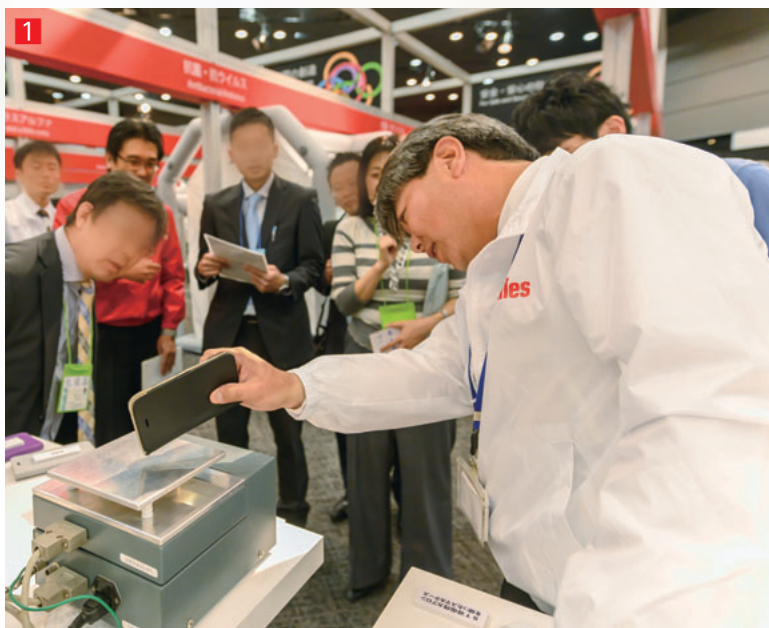
Achilles
THE NEXT
E
みなさまと、ともに。

マテリアル&プロダクト展 2018

開催日:2018年11月20日(火) 21日(水)

会場:ベルサール新宿グランド

開催テーマ:「変幻自在な未来へ。人に社会に、プラスチックができること」



1 導電と車輻用内装材の技術を活用した「導電性合成皮革」は、多くのご来場者様から評価をいただきました。2 開場と同時にたくさんのご来場者様でにぎわった受付スペース。3 会場内3カ所に設置したプレゼンテーションステージでは、熱心に耳を傾けるご来場者様の姿が印象的でした。4 事業部展示コーナーでは、対話やデモンストレーションを通じて、展示員とご来場者様の活発なコミュニケーションが行われていました。

展示内容

当社の現在と未来を伝え、社会的課題に向けた挑戦も訴求

ATN2018では、事業部ごとの製品展示やデモンストレーション、プレゼンテーションなどを通じて、当社の最新の技術・製品を紹介しました。また、社会的課題の解決に向けた未来の製品

を紹介するコーナーや、ご来場者様参加型の展示など新しい取り組みにもチャレンジしました。

Close-Up1 | 企画展示「技術の融合ーアキレスの挑戦」

ATN2018のメインコーナーとなる企画展示では、「技術の融合ーアキレスの挑戦」をテーマとした展示を実施しました。4つの社会的課題とアキレスの技術分野を掛け合わせ、事業部相互の技術の融合により開発を進めている23の製品・技術を展示しました。本コーナーはATN2018の中でも最も反響が大きく、社会的課題を意識したモノづくり、事業部の技術コラボレーションに、関心と期待の声が寄せられました。

■展示製品例

快適な居住空間の創造

静電気・電磁波

裏面めっき加工壁紙

建装事業部、工業資材販売部、研究開発本部により開発を進めている製品です。壁紙へのめっき加工を実現し、静電気を感知するセンサーとしての利用のほか、将来的には静電気を電力として取り出すデバイスへの応用を検討しています。



医療・福祉の充実

抗菌・抗ウイルス

抗ウイルステント

引布販売部とフィルム販売部により開発を進めている製品です。地震、水害などの発生により、災害医療の重要性が高まる中、テントに抗ウイルス機能を付与し、現場でのウイルス感染対策に貢献します。



4つの社会的課題

- 快適な居住空間の創造
- 安全・安心の社会へ
- 医療・福祉の充実
- 産業と技術革新の基盤

事業部を超えた
技術の融合により
新たな価値を創出

アキレスの技術分野

- 静電気・電磁波
- 熱
- 抗菌・抗ウイルス
- 吸音・防振

Close-Up2 | フィナーレ展示「できるかも!」

会場出口付近に設置したフィナーレ展示では、「できるかも!」と題し、従業員から募った未来の製品のアイデアを紹介しました。また、ご来場者様には、「こんなモノ、できたらいいな!」というアイデアをカードに記入して、展示ボードに貼付いただきました。ご来場者様からは「具体的なプランを相談したい」というご要望もいただいております。お客様・お取引先様との価値協創につながる、双方向のコミュニケーションを醸成することができました。



成果

ご来場者様との絆が、価値協創の新たな一歩に

大盛況のうちに幕を閉じたATN2018。その成果は、ご来場者様アンケートの結果にも表れています。多くの方から好意的なご回答をいただき、当社の技術・製品への理解を深め、モノづくりの姿勢に共感いただけたことを確認しました。また一方で、当社の展示員もご来場者様との対話を通じて、今後の製品・技術開発につながる気付きを得ることができました。モノづくりの起点として当展示会での対話を機に開発が始まった製品が複数ありました。今後も価値協創の実践を推進していきます。

ご来場者様の声

※ご来場者様アンケートより抜粋

新しいアイデアで、新しいアキレスを創っていく勢いを感じました

社会的課題と技術をクロスさせた展示がユニークで分かりやすかった

汎用技術を組み合わせることで新たな価値を生み出す視点が素晴らしい

アキレスさんの可能性を感じる事ができる良い展示会でした

■数字で見る成果



ご来場社数
968社



ご来場者数
2,263人



好意的なご意見*
94%

※「好意的なご意見 94%」は、ご来場者様アンケート「設問8: 今回の展示会に関してご意見をお聞かせください。」に対するご回答で「とても参考になった(38.1%)」「参考になった(55.9%)」の合計値です。

会社概要

設立 1947年5月
 代表者 代表取締役社長 伊藤 守
 資本金 146億4千万円
 従業員数 1,677人(連結) ※2019年3月末
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

本社所在地 〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー
 事業所 [販売拠点] 東京、大阪、北海道、愛知(ウレタン)、福岡
 [生産拠点] 栃木(3拠点)、滋賀(2拠点)、北海道、福岡
 ※各拠点の詳細な住所は以下URLでご確認ください
<https://www.achilles.jp/company/>

事業拠点

アキレス アキレス(株) 拠点

子会社事業説明

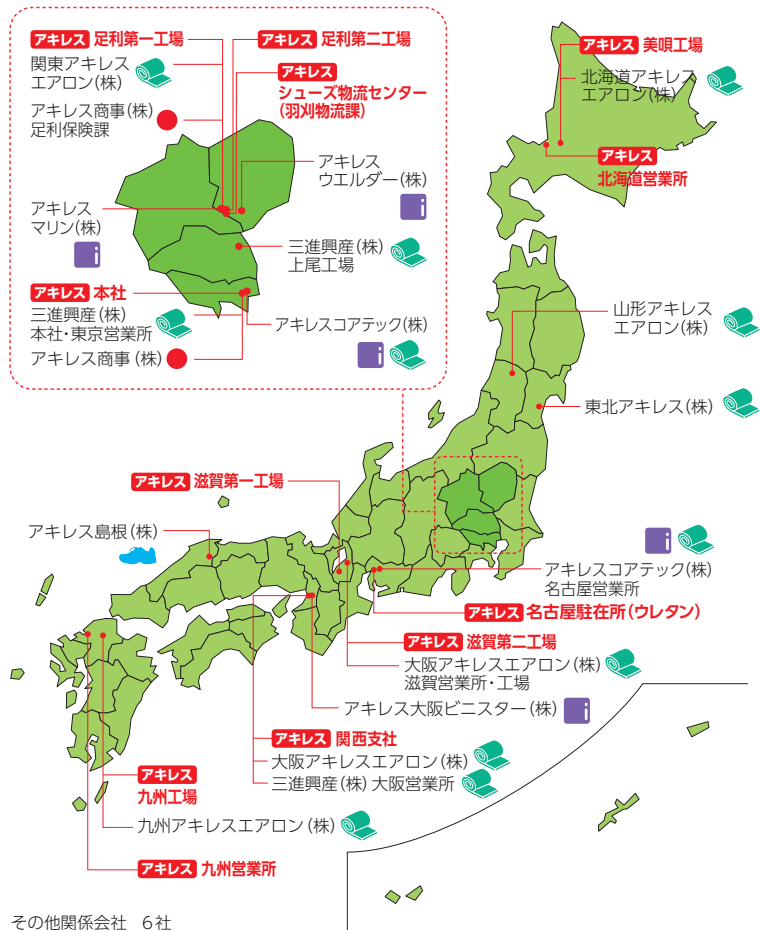
シューズ部門

プラスチック部門

産業資材部門

その他

●日本

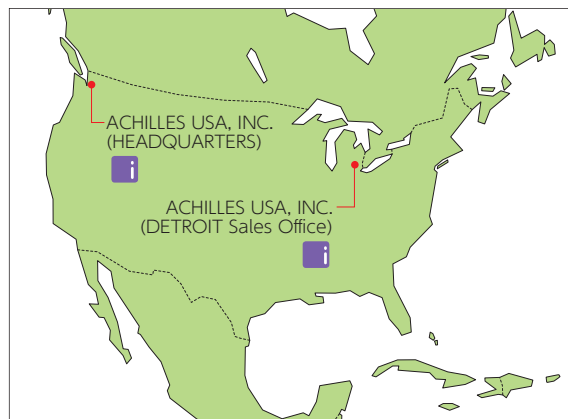


その他関係会社 6社

●アジア



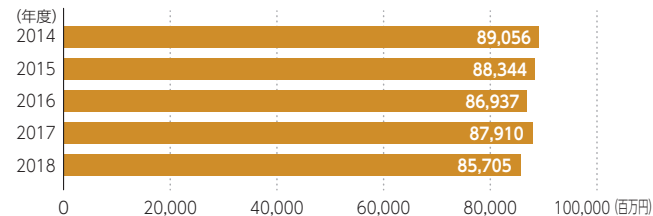
●アメリカ



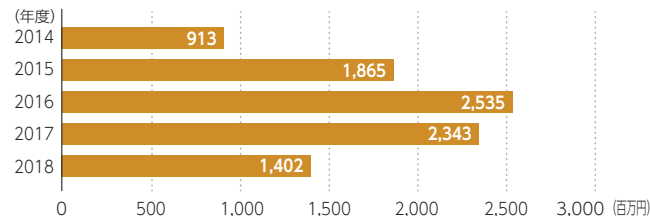
連結売上高・利益年度別推計

※その他、財務情報および大株主に関する情報は有価証券報告書をご参照ください

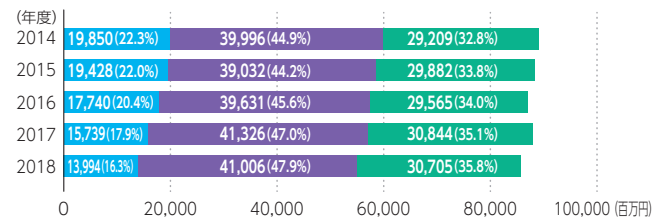
●売上高



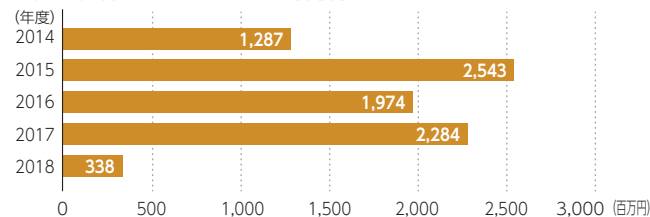
●営業利益



●セグメント別



●親会社株主に帰属する当期純利益



アキレスのCSR 2019 冊子版 発行日:2019年9月 発行:アキレス株式会社

※PDF詳細版では、アキレスのCSRの考え方や取り組みについて、より詳細に紹介しています。 <https://www.achilles.jp/csr/>



お問い合わせ先 【コンプライアンス推進室】 〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー TEL:03-5338-8232 FAX:03-5338-8250
 【安全環境推進部】 〒326-8511 栃木県足利市借組町668 TEL:0284-73-9148 FAX:0284-73-9854